



税金と幸せ

大田区立東調布中学校 三年 椿田 結衣

私はこの作文を書くにあたって、日本と外国の消費税について調べてみました。すると国民の「意識」と「幸せ」の違いに気づきました。まず消費税とは、商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金のことです。消費税は、他の税とは異なり世代や就労の状況に関わらず、多くの国民が負担をしています。

現在の日本の消費税率は、十パーセントです。それに対してEU加盟国は、最低十五パーセントの消費税を導入することが定められています。さらにデンマークにスポットを当ててみると、消費税率が二十五パーセントと世界の中でみてもとても高いです。しかし、「世界で最も幸せな国」ランキングでは一位をとっています。その理由には税金の使われ方にあります。

そこで日本とデンマークの消費税の使われ方について比べてみます。日本では、消費税の多くが社会保障に使われているそうです。社会保障制度は、国民の「安心」や生活の「安定」を支えるセーフティネットです。全ての人の生活を生涯にわたって支えるものです。

デンマークでは、医療費、介護サービスが無料です。さらに、大学ま

での学費は国が負担してくれます。他にも結婚や葬式が無料だったり、障がい者にとっても暮らしやすい環境づくりがされていたりするそうです。

現在の日本の税金の使われ方に不満はないし、消費税率が全てだとは思いませんが、消費税率が低くて幸せ度がそう高くないなら消費税率が高くて幸せ度が高い方がいいと思います。

とは言っても、日本で消費税率が上がると消費活動が低下する恐れがあるそうです。さらに国への不信感が湧き、幸せどころではなくなってしまうかもしれません。しかし、「自分たちのため」と思えばそうでもないのではないのでしょうか。国民の幸せに対する「意識」が一致する時がきたらその「意識」に合った対策がとれるといいと思います。

私は、この作文を書くまで世界の税金だけでなく日本の税金についてすらあまり知りませんでした。一番身近な消費税についてもあまり知識はなく、消費税の使われ方と幸せ度が関係していることに驚きました。私のように税金についてあまり知らない人は多いのではないのでしょうか。一度だけでも、少しでも税金について調べてみると意識も変わると思います。「税金」と「幸せ」が上手く噛み合う社会がつかれるように国民全員が考えるべきだと思います。